

2024年4月6日（土） バガヴァッド・ギター勉強会

- ・ 朗誦：第18章21節～第18章30節
- ・ 勉強：第5章26節、第3章37節

みなさん、おはようございます。花見しましたか、おおきなチャンスですよ。一石二鳥です。ギター勉強と花見ができます。いいですね。

新しい節の説明をしましょう。前は5章25節でした。

今日は、**5章 26節**、79ページです。みなさん見つけましたか？

(唱える)

カーマ：包括的な意味で欲望、特別な意味で肉欲。肉欲の意味で言っています。

クロダ：怒り

ユクタ：合わせる

ヴィユクタ：合わせない

ヴィユクタンナシ：カーマもなし。クロダもなし

yati：ヤマ（抑制）する人。

それを実践する人。サンニャーシー。放棄する人。

家主者も実践するとヤティになります。

バガヴァッド・ギターは求道者（グドオシヤ・道を求め歩む者*）のためですから、ヤタ（制御する）チッタ（こころ）の言葉があちこちにありますが。

誰でも実践する人はヤティですが、レベルがあります。

◎ ヤタ・チェータサーム

チェータサーム：心。包括的に、中の器官、つまり心、知性の意味。

ヤタ（コントロール）する、実践できました。

この節では、その種類の高いレベルの人です。

◎ ヴィディタートマナーム

その結果で、抑制する、制御する、

霊的な実践して自分のアートマン、本性を理解することできた、悟ることできました。

◎ アビトー ブラフマ・ニルヴァーナン

ブラフマンに入った方です。

入ったの意味は、場所ではない。部屋に入ったの意味ではない。

ひとつになりました、その意味です。

例えば、川の水が海に入りました、それで川の水と海の水が、ひとつになりました。

個人的な魂 ニルヴァーナ が ブラフマ とひとつになりました。

それが、ブラフマ・ニルヴァーナ。

ニルヴァーナの普通の意味は、ヴァーナ が無し。*ニル (Nir)：不、非、否、無の意味の接頭語
仏教では沢山使っています。

普通の者は、サンスクリットは完璧でないですから、お釈迦様はパーリ語で教えました。

Nir + vana ニルヴァーナ = サンスクリット語

Ni + bbana = パーリ語

欲望が無し、

それが ニルヴァーナ です。

vana が欲望。

Nirvana が欲望が無い。

欲望が無くなりますと悟ります。

どうして我々は悟らない？

欲望があるからです。

ホーリー・マザー サーラダ・デーヴィに、ある弟子が尋ねました。

マザー、いつ悟りができますか？

悟りの条件はなんですか？

普通、悟りのイメージは、長い時間の瞑想、祈り。いっぱい実践しないと悟りはできない、今生で、できないかもしれない、ですね。

マザーの答えは、とてもシンプルで短い答えです。

「ある瞬間、もし、あなたの欲望の全てが無くなったら、
あなたは、ニルヴァーナの状態を得ます」

長い瞑想、長い祈り、長い実践、何も無い。

「瞬間に、完全に、欲望からフリーになる。然らば、ニルヴァーナを体得する」

どうですか？ 簡単？ 楽？

欲望を放棄しますと、直ぐ悟ります！

沈黙もいらない、断食もいらない、修行の実践が何もいらない。直ぐ悟りますよ。楽？

どうして、楽ではない？（笑）
皆さんは自分の経験で知っている通りです。
欲望は無敵みたい。
潜在意識の中に隠れています。
自分でも分からない。

その状況、その環境に入りますと、出ます。
それまで気づきも無かった。
そんなにも我々は深い欲望いっぱい。
内省しますと分かります。
どれくらい深い、数もどれくらいか。
いっぱい、いっぱい欲望があります。
ですから、楽では無いのです。
ホーリー・マザーのポイントはとても大事ですね。

ブラフマンを悟る意味は、
ブラフマンの本性とアートマンの本性がひとつになります、ですね。

5章24節 に、ブラフマ・ニルヴァーナ、とあります。
5章25節 にもあります。

そして、この **5章26節** の
ブラフマ・ニルヴァーナ は、何が違うか、解りますか？
はっきり違いがあります。

◎ アビトーン：両側

両側 の意味は、生きている間、と、亡くなった後。

ジーンヴァン ムクティ と、 ヴェデーハ ムクティ。

ちなみに、有名な聖典の名前は、
『ジーンヴァン ムクティ・ヴェヴェーカ』 *ヴェヴェーカ：識別

◎ Jivanmukti ジーンヴァン ムクティ には 2つ言葉がその中に入っています。

Jivat：生きている

<5章26節 意味のまとめ>

ある種類の悟った人、求道者*は、自分の心を制御できました
また、自分の本性を悟ることもできました
その種類の方は、
カーマ（肉欲）も無し。クローンダ（怒り）も無し。

その種類の、抑制することができた方、自分の本性を悟った その方は、
生きている間も、亡くなった後も、
ブラフマンの本性と自分の魂がひとつになります。

カーマ、とクローンダ

他のいろいろ我々の欠点ありますが、2つ大きな欠点は、カーマとクローンダです。
バガヴァッド・ギーターの中に、あちこち、何回も、カーマとクローンダ出ています。
バガヴァッド・ギーターの目的は悟りです。
悟りの一番の条件は心のキヨラカです。
心の中に欠点がある間、悟りはできません。

いろいろ欠点の中で、一番大きいのがカーマとクローンダです。
他にも、欠点は、欲張る、幻惑、うぬぼれ、嫉妬、野心、いろいろあります。ですけれども、
それらの中で一番大きい2つが、カーマとクローンダ。
何回もバガヴァッド・ギーターの中に出ています。

何の目的で何回も出ています？
なぜなら、カーマとクローンダは取り除かないといけない、からです。

例えば、アルジュナの質問です。シュリー・クリシュナに問いました。
「我々はやりたくないけど、強引で罪を犯します。
中から、何の原因で我々はいろいろ罪を犯します、どうして？ 何が原因？」

シュリー・クリシュナの答え、

3章37節

ラジャス グナが原因です。
ラジャスの性質からカーマとクローンダが出ています。
とても大変な罪、我々の敵は、カーマとクローンダです。
それを理解してください。

普通の者は興味が無い。ですけれども、
道徳的と靈的、の両方の求道者*にとって、カーマとクロンダは一番の敵です。
カーマとクロンダの影響で、普通の知識だけでなく特別な知識も、
つまり聖典の勉強をして出た知識も、その種類の知識も全部無くなります。
ですから、気をつけてください。

どうして？ 別の理由あります。深い理由です。例えば、2人の子供がいます。両親が同じ。
環境が同じ。一緒に育ちます。お互いに（アトラクション）自然に惹かれ合う。なぜなら、
源が同じです。同じ学校で勉強しました。毎年、集会します。
同窓会60年、70年前に同じ小学校で勉強しました。
日本ヴェーダ協会をいっぱいサポートした中井ハルさんは、私が日本に来た時、その方は
92歳程でした。とても元気でした。仕事もやっていました。
毎年毎年1回、彼女は逗子から東京に出て来ていました。小学校の友達に会う為に。
レストランに出かけて～。
面白いのは、マハラージ、だんだん参加人数が減っています、最初は10人以上で、7、8人
になって、毎年毎年少しづつ減っています。その方々は（皆お年寄りですから）耳が遠い。
友達が何を言っても聞いていない。みんな自分のことを言っています。
どのぐらい前に一緒でしたか、それで自然に惹かれ合っています。大学の同窓会、同じ大学、
同じ学校、同じ町、同じ村、同じ田舎、
「あら、あなたも同じ、逗子に住んでいますか？ 鎌倉？ 近い。」挨拶の時に出来ますよね。
それが、ナチュラル・アトラクションです。

我々の源は何ですか？
ブラウマンです。
考えてください、世俗的な例から何処にいきましたか？

さっきの例は世俗的です。
今の例は、靈的です。
我々の源はブラウマンから出てますから、自然に惹かれ合う。
時々、それについて、我々は意識は在る。時々、無い、です。

そして、結びつきたい。絆を持ちたい。つながりたい。近づきたい。
深い意味で、
ひとつになりたいには、3つのレベルがあります。

1. 靈的なレベル、2. 心のレベル、3. 肉体のレベル。 源（ミナモト）が同じだったら～

1. 霊的なレベルでひとつになる

それは、悟りです。

(マハラージが聖句マントラを唱えられる)

全てのアートマンが私のアートマンにある、私のアートマンが全てのアートマンにある、

その状態が出ます。

2. 心のレベルで

我々の心の考えが一緒になりますように。

サンスクリットの有名な祈りがあります。

調和のマントラです。

~ **Samgachchhadhvam** ~

結婚のとき1つ、マントラがあります。夫が妻に言います。

「あなたの心が私の心になりますように、私の心があなたの心になりますように」

3. 肉体（身体的）レベルで

いろいろできますけど、1つには肉欲です。

原因は、同じ源ですから。そこから来ています、肉欲の深い原因が。

それが苦しみの原因になっています。創造も続けています。自然の一つの目的がそうです。

創造を続けたいでしょ。それが、肉欲が、そうです。

一番高いレベルが霊的なレベルです。

クローダ（怒り）の原因はなんですか？

例えば、我々は、欲望があります。欲望を満足できないなら、怒りが出ます。

障害 obstacle です。

もし、我々はエゴを傷つけられると、怒りが出ます。

侮辱される、批判される、と、怒りませんか？外に出さなくても中には怒りはありませんか？

他の人が言う事を聞かない従わない時、怒りが出ます。

ある人がけっこう何回もミスをしますと、我々は怒りが出る可能性があります。

すると、他の人を傷つけてしまいますね。

カーマとクローダは、大きな霊的な障害です。霊的な道の障害です。

この2つの大きな敵の中では、どちらが大きいですか？

- ・カーマと考えた人は？
- ・クローダは？

ある考えで、一番の、カーマより大きな敵は、クローダです。
何故なら、カーマはあっても満足しないで抑圧することができます。
身中にあっても外に出さない。なぜなら周りのプレッシャーがありますから。
皆さんの前で出すと恥ずかしい、批判もされます。そのような関係で抑制できます。

クローダはそうではない。プレッシャーが無いです。
何処でも、皆さんの前でも、我々怒りを表します。
皆さんの前で怒っても、恥ずかしいことも批判されることもないです。
つまり、クローダ（怒り）は抑制しないで表してしまいます。何処でも。
カーマ（肉欲）はあっても隠れた状態です。表さないように抑制すべく我々頑張っています。

このような論理で、カーマよりクローダが皆さんの一番の敵、です。
でしたらその結果、どうして、それが敵なのですか？
求道者*のために抑制しないといけないのは、何故？

悟った人にはカーマとクローダは無いです。
求道者*の見方で、どうして、それを抑制しないといけない？

一つには、カーマとクローダの結果で、心は落ち着かなくなります。
求道者*は、心が静かにならないといけない。落ち着いた状態に居ないといけない。
そうしないと、神様のことを集中して考えることができないからです。
求道者*の目的は、その心の状態をつくって居ることです。

カーマとクローダの、その状態に入りますと、瞑想は絶対無理ではないですか？
求道者*は、とても気をつけて居ます。
カーマとクローダに圧倒されたその状態を避けたいです。目的がそれだからです。
カーマとクローダが大きな障害の理由は、それだからです。

もう一つは、精力が、スピリチュアルライフにとって、とてもとても大事です。
それを浪費しない。
求道者*のためにとてもとても大事なことは、それをどのように溜めるか、です。
何故なら、それがなかったら、神様の瞑想は無理です、出来ません。
体の力、そして、よりもっと、心の力が大事です。

三つ目、（カーマとクローダが我々の最大の障害）の原因・理由は何か？
カーマとクローダのとき、神様のことを忘れず、から。

快樂が大好きな者の、その問題は何ですか？
快樂のことをいつもフォーカスしますと、神様のことをフォーカスするのは無理になります。

求道者* の為にその種類の場所、環境を避けることは絶対必要です。
そうしないと、日々の生活の中で完全に神様のことを忘れてしまいますから。

カーマとクロードが、もし出ますと、
カーマとクロードのサムスカーラ（潜在傾向）が、もっと強くなります。
また出しますと、前からあるサムスカーラは、さらにもっと強くなります。
求道者* の目的は、サムスカーラを取り除くことです。
カーマとクロードが出ますと、取り除くことができただけで無く、もっと強くなります。
つまり、それは求道者* にとっての敵であり、障害です。

更にもう一つは、カーマとクロードの結果で、他の人を傷つける可能性があります。
例えば、私は怒りますと、その相手の感情・気持ちが、悪くなります。
その気持は、求道者* の為によくありません。
とても精妙なものですからね。
傷つけられた悪い気持ちの影響は、求道者* である私の為によくありません。
ですから、抑制するが大事ですね。

次は、ヴェイクターネーシ

今までは、求道者* の見方で説明しました。

カーマとクロードが出ていますと、求道者* の為によくありません。
霊的な無知であり、障害ですから気をつけないといけません。
抑制しないとダメです。
本当の求道者* は、一生懸命にそれを気を付けて居ますね。

ですけれども、**5章26節** の求道者* は、
ヴェイクターネーシ です。

ですから、

カーマとクロードは出ていません。

一般的なレベルの求道者* なら、出た後で気をつけます。抑制する様にします。

が、この節の求道者* はカーマとクロードが、全然出ていません。

出た後チェックして気を付けるのではない、違います。全然出ない、のです。

出る可能性も無しの状態です。

中にカーマとクロードが無しですから、出ようがないのです。

カーマ・クロード・ヴェイクターネーシ

どなたがその状態出ますか？

カーマとクロードが無し。
その種類の方は、

ヴェディターアートルマナーム

(自己の本性アートルマシを知って居る) 悟った人です。

そして、その状態が、
カーマ・クロード・ヴェユクターナーシ

とても特別ではないですか？
実践のことも無い、抑制のことも無い、自然の状態です。ナチュラルな状態でそうです。

Q. どうしてカーマとクロードが出ない？

Q. カーマ・クロード・ヴェユクターナーシの状態で居るのは何が理由・原因ですか？

Q. 悟った人の中に、カーマ無し、クロードも無し、なのは何が原因？

5章27節、28節、後で説明します。

今は、
ジーンヴェンムクティニ≡生きている間 について説明します。

① Jivanmukti

ジーンヴェンムクティニは、生きている間。

いつも、ブラフマンと自分の魂がひとつになっています。

外から分かりません。外から見ますと皆さんと同じやり方で食べます、寝てます、話します。

ブラフマンと自分の魂は、いつも合一しています。

② Vi-deha mukti

亡くなった後。

体が無くなった後、自分の魂とブラフマンがひとつになります。

Q. 何がムクティニですか？

束縛から解脱すること。

束縛を開放すること。

Q. 解脱 (ゲダツ) の意味は何ですか？

いろいろ束縛を開放して、その束縛から解脱すること。

束縛は何の種類がありますか？

例えば、一つには体意識から出る束縛。他に、執着が束縛です。欲望も束縛。

もう一つには、サムスカーラ、それも束縛。

また、サットウグナ、ラジャスグナ、タマスグナも束縛。

全部が、一つ一つが鎖です。アートマンの鎖です。

アートマンはいつも自由ですけども、

いろいろ欲望、執着で縛られて居ます。

束縛（サムスカーラ、3グナ）を開放します。すると、

アートマンの本当の自らの状態が出ます。

アートマンの本当の状態は何ですか？

自由です。

フリーの意味は？

自由であちこち行く、自由であちこち話す、自由である仕事をします、自由で楽しめます、、、

その種類の自由は、何の自由？

それは、感覚の自由、心レベルの自由です。その本当の意味は、感覚の奴隷、心の奴隷。

我々は今、自由があると考えています。なんでも食べる、なんでも快樂。

その種類の自由は、感覚の自由、心レベルの自由ですから、

ほとんど、タマスとラジャスです。

サットウ的では無いです。サットウ的な時には、奴隷とは言わない。

皆さん、はっきり、そのことを理解してください。

何の意味で束縛と言うか？

ジーヴァンムクティ＝生きている間、

欲望、執着、サムスカーラ、3グナに束縛された状態、それが普通では無いですか？

悟った人は束縛を全部切ります。

本当に自由です。

それはアートマンのレベルで自由です。

身体的な、例えば何処でもプライベートな立ち入り禁止場にも入れる、その意味では無い。

その種類の悟った人は、

感覚の奴隷に非、感覚の持ち主（主人）。

心の奴隷に非、心の持ち主（主人）。

悟った人はマスター（支配者）、持ち主（主人）です。

肯定的に表現しますと、

「神様（ブラフマン）とひとつになります」です。

肯定的否定的、両方とも、束縛は消えます。
ブラフマンと自己の魂はひとつになっています。
全て、中（ナカ）です。外からは分かりません。

スワミー・トーリヤーナダーは1つの疑いがありました。
アートマンの本性は自由でしょう？ なのに、どうして、アートマンは、体に入りました？？
体に入ってしまうと束縛の状態でしょう。
常に自由であるアートマンが、どうして、体に入りましたか？？
限定された状態になるのに、なんで？？

そして、後で理解しました。
何故なら、生きている間もアートマンは自由の経験がほしい、ですから、その為に、
アートマンは体を持っています。
束縛の状態に入っても自由の経験が欲しい。その目的でアートマンは体に入っています。
とてもおもしろいです。そのことを理解したら、とても喜んでいました。
「おお、なるほど〜」体が無くても自由です。体に入っても自由の経験が欲しいですから、
その目的で体に入りました。それが面白いです。それが、ジーヴァンムクティです。
生きている間も、解脱。亡くなった後も体が無いです、解脱です。

Q&A

（参加者）カーマより大きな障害はクローダという話があったのですが、
そもそもカーマは欲望と考えていいですか？
（マハラジ）包括意味で欲望ですけど、この場合、特に肉欲と考えてください。

（参加者）アートマンが肉体に入る理由、これが今ひとつよくわからない。
束縛された上でも自由というところを、もう少しわかりやすくお願いします。

（マハラジ）人の楽しみにはいろいろ種類があります。
楽しみの経験がある、そうすると、周りのその雰囲気に入ります、例えば、世俗的な楽しみの中に入ります。ですけれども、その種類の楽しみの経験の結果で我々は最終的に困ります。
ところが、その場所に入らないで、また別の場所に入りますと、霊的な喜び・至福ができる、その種類の場所もあります。
どちらを選ぶかは、あなたのオプションです。
とてもおもしろい快樂の場所に入りますと、ある時面白くても最後に困ります。
別の種類の場所は面白く無い。しかし、その場所に行き実践しますと最終的に至福が出ます。
プレーヤーとスレーヤー。
プレーヤー（一時的な感覚的な楽しみ）は最終的に困ります。
スレーヤー（霊的なよろこび）は、最初は面白くなくても、最後は面白くなります。
あなたがプレーヤーだけ楽しめるとオプションがなくなります。スレーヤーの状態は無い。
ですから比べることはできません。チョイスはできない。

そして、もしスレーヤーだけありますと、最初は苦い経験でも最終的に至福が出ます。
生きている間には、あなたがどちらを選ぶかのチョイスがあります。
生きている間に、体をもったままで自由、生きている間にも至福ができます。